



第79巻 第1号
 年4回発行
 社会福祉法人 慈生会
 〒165-0022
 東京都中野区江古田3-15-2
 TEL 03-3387-5567
<http://www.jiseikai.jp>
 振替口座 ベタニアの家
 00170-6-15317

創立九十年、感謝と希望

シスター・松本 圭世

「主イエス様のご降誕と、新年のお祝詞を申し上げます」

昨年中皆様から頂きましたご支援、ご指導に心から感謝申し上げますと共に、本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

令和二年、オリンピック開催の年でもあり、慈生会は六月に創立九十年を迎えます。昨年十一月、教皇フランシスコが日本を訪問され、教会だけではなく、日本の社会に対してもメッセージを贈られました。その余韻が続いている新年でもあります。教皇は世界を廻りメッセージを語り続け特に日本に於いては「すべてのいのちを守るため」という来日テーマのもと核兵器の不使用を訴え、日本訪問が「後退せずに持続するゆるぎない平和へと導く」道を歩む励みとなる事への期待を語っています。来日によって日本中の多くの人の心に灯された熱い火が日々の歩みの中

で「生きる火」となっており、ますますうに願っています。

慈生会の事業が九十年を迎えるにあたって、振り返りながら、今日まで歩んできたことができたのは、多くの恩人の方々のおかげであり、創立者フロジャク神父様がいつも恩人への感謝をおっしゃっておられました。精神的にも物質的にも支えてくださいました皆様方に厚く感謝申し上げます。この「瑠璃草」は特に恩人を含めた対外的、対内的機関誌として創立者の説話や事業報告、又慈生会の「今」の姿とその息吹をありのままに伝える情報として創刊以来受け継がれて参りました。現在は慈生会が、後を継ぎ編集の役割を果たしております。創立者がベタニアの事業に踏み切る第一歩となったのは、結核で退所させられても帰るところのない者が大部分であった時代、激増する結核の犠牲者に対して収容施設は中野療養所を除いてはほとんど皆無に近い状態であった事など（死亡率も高かった）、この現状

を見過ごすことのできなかったことから一軒の借家が神父の努力によって借り入れられ、数名の患者が収容されることになりました。慈生会の始まりを思い起こしながら、創立者の心に燃えた火が大きな事業に発展したことがわかります。現在は派生して施設の種類が増えておりますが、慈生会の仕事は一人ひとりへの「いのち」のかかわりを大切にする精神・理念であり、九十年を迎える今も同じです。慈生会の歴史の中に、病院を譲渡しなければならなかった大きな出来事がありました。希望をもって職員の方々が乗り越え、邁進している現在を感謝いたします。九十年を迎えるにあたり、創立者の思い、遺された日々の言葉、熱い心は、来日したフランシスコ教皇と同じ「ころ」を感じています。ベタニア修道女会が八十周年の記念に、創立者の言葉で「日めくりカレンダー」を作成しましたが、それを目にするたびに創立者が言われている事が響いてきます。慈生会で働く職員の方々と力を合わせ次の世代に、理念・精神を伝えていくことができますように切に願っております。「感謝」と「希望」と共に新しい年を歩みたいと思います。本年もどうかご指導・ご支援をいただけますようお願い申し上げます。

(慈生会理事長)

謹んで主のご降誕と新年のご挨拶を申し上げます、皆様の上に豊かな恵みをお祈り致します。

社会福祉法人 慈生会

理事長 Sr・松本圭世

役職員一同

徳田保育園

中野トータルサポートセンター

ベタニアホーム・慈しみの家

ベタニア・デイ・ホーム(月・星)

中野北ベタニア訪問看護ステーション

慈生会中野ケアプランセンター

ベタニアヘルパーステーション

中野区江古田地域包括支援センター

ナザレットの家

ベトレヘム学園

聖家族ホーム

聖ヨゼフ老人ホーム

慈生会清瀬ケアプランセンター

ベトレヘムの園病院

マ・メゾン光星

指定相談支援事業所ノエル

放課後等デイサービス エスポワール

学校法人 東星学園

(幼・小・中・高等学校)

理事長 Sr・田代嘉子

教職員一同

ベタニア修道女会

総長 Sr・田代嘉子

姉妹一同

ベタニアの家チャリティコンサート 子どもたちの未来のために

鈴木 ますみ



令和元年ベタニアの家チャリティコンサートは、児童養護施設ベトレム学園の卒園生を支援することを目的として、行われました。年末のご多用の中、足をお運び下さいました皆様には、深く感謝申し上げます。ご出演頂いたのは、高丸ホット・シスターズ(歌・高丸真理さん、フルート・吉田由美さん、ピアノ・高丸淳子さん)で、真理さんはブラジルの子どもたちの支援を、一五年間に渡って続けてこられたそうです。歌と演奏はもちろん素晴らしかったのですが、合間のお喋りもとても楽しく、

元気を頂きました。観客と一緒に歌うコーナーもあり、皆様とても楽しんでいらっしかったです。なお、当日のチケットの売上げは、一三一万一千円、ご寄付が三〇万六千一百円でした。ご協力ありがとうございました。

この原稿を書いている十二月十二日はベタニアの家創立者であるフロジャク神父様の命日です。神父様は目の前の困っている人々を放っておくことが出来ず、救いの手を差し伸べていった結果、ベタニアの事業が多岐に渡って広がり、現在に至っています。一番小さく弱い立場にある子どもたちには「お父様」と慕われ、教育にも熱心で、現在の東星学園をつくられました。

ベトレム学園では、子どもたちが卒園する際には就職先や進学先を決め、住む場所も探して、新しい生活で困ることが無いように、出来る限り支援をしているのですが、仕事を辞めてしまったり、学校を中退してしまうと、生活困窮に陥ってしまう子どももいます。困った時に助けを求められる子どもはまだ良いのですが、連絡が取れなくなり、孤独の一人一人で苦しんでいる子どももいます。コンサートの前日に、卒園生が一人でひっそり亡くなっていたことがわかりました。数年前にも生活を立て直すために、手助けしたことがありましたが、その後は音信不通でした。もったいなく出来なかったのか、と悔やまれます。そして、今学園にいる子どもたちに対して、自立に必要なことは何なのかを、考えさせられました。

金銭的支援が全てではありません

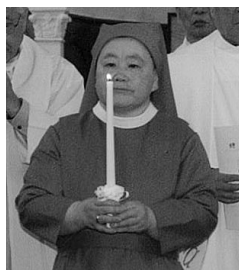
が、生活保護家庭よりも低い施設の子どもたちの進学率を、少しでも向上させ、子どもたちの夢を応援して行きたいという気持ちもあります。

子どもたちは、この国の未来を担う大切な宝です。これからも皆様の温かいご支援、ご理解を賜りますことを、心よりお願い申し上げます。(ベトレム学園施設長)

終生誓願式を終えて

シスター・藤原 貴子

猛烈な台風十九号、その後の大雨により大きな被害を受けられた方々が多かった十月。その様な折に、誓願式にご参列下さり、また多くの皆様のお祈りによって終生誓願のお恵みを頂けたことに深く感謝致します。



この感謝の気持ちをどのようにお伝えしようかと考えていました。が、十月十三日(日)にベタニア修道女会と大変ゆかりの深い川裕神父様が九十五歳でご帰天なされ、誓願式直前に、再び創立者の伝記『フロジャク神父の生涯』の中に市川神父様を探そうと思いました。市川嘉男お兄様神父様・裕弟神父様は、昭和二十六年・二十七年に司祭叙階なさいました。その数年前に、フロジャク神父様が一番大変苦しかった

た時代から「右腕」となっていたメイラン神父様を亡くされ失意で過ごされていた頃、お二人の若い神父様の誕生はどれ程お喜びが大きかったでしょう。フロジャク神父様の両側で、お二人のご兄弟神父様が座って並んで「みこころ広場」で撮影された写真が載っています。結局、最後まで読み切ってしまいました。この本の中にとっても心に残った言葉がありました。「何は無くとも(貧しくとも)、真実なものの、充溢(じゅういつ)の意味は充満と同じ)する何ものかが、この家(当時のベタニアの家)を満たしていた」。

「充満」は聖書にも出てきますが(神様の満ち溢れる豊かさの全てにあずかり、それによって満たされているように、という意味でしょうか)、現在の私たちも、イエス様によって満たされる、何は無くとも、充溢する何ものか、情熱、愛を感じられる「ベタニアの家」で有り続けたいと思います。今は社会福祉の制度もしっかり確立されてきていますが、制度だけでは補えません。

フランシスコ教皇様が呼びかけられるように、「傷ついても、出向いていく教会」、自分(自我)から出て、出会って、関わっていく。『わたしは道であり、真理であり、命である』イエス様のことばに導かれて歩んでいきたいと思っています。

皆様お一人お一人の中のイエス様に気づかれ、いたらぬ私にも神様の恵みが用意されていることを感じます。あらゆる場でご指導いただきました全ての皆様に深く感謝致します。

(ベタニア修道女会)

光星祭二〇一九 笑顔でつながる輪

実行委員長 井野 志穂里

マ・メゾン光星では、今年の十月四日に「光星祭二〇一九」笑顔でつながる輪を開催しました。今回は、来年に行われるオリンピックをコンセプトに様々な企画を行いました。アートギャラリーでは、日々利用者の方が製作している絵画・書道・手織り・陶芸・染め・華道・手芸品などの作品に加え、地域の方々の作品も多数展示しました。また、参加型アートとして直径一メートルの巨大地球儀を作成し、用意した国旗に思い思いのデザインをして、それを地球儀の好きな場所に刺しながらオリジナルの世界を作るという企画を行いました。ステージでは、参加型企画の風船割り対決・外部の方々によるダンスパフォーマンス・子供達と職員のバンドによるパプリカの合唱・お楽しみ抽選会などを行いました。大きな盛り上がりを見せていました。その他にも、地域の方々が作る夕狩鍋の無料配布、乗馬体験コーナー、スタンプリーなど、幅広い世代に楽しんでいただけた企画も行いました。多くの方々のご協力



令和になり、初めてのバザーが十月二十日に開催されました。今年も徳田教会バザー、徳田まつり(徳田保育園)、中野トータルサポートセンターバザーとの合同開催で、秋晴れの爽やかな風の中、まさに「バザー日和」となりました。

天候を心配していた皆に、まずは安堵の笑顔。スタート時間よりも前に沢山のお客様が並んで下さり、ありがとうございました。感謝の笑顔。焼き鳥、焼きそば、フランクフルト、そして、シスターによる「マルタの店」のシフォンケーキ、あんどーナツを

実行委員長 坂本 真理

笑顔溢れる 「中野地区ふれあいバザー」(^ ^)

(マ・メゾン光星)

リンピックも盛り上げていければと思います。



により、大盛況の中、無事に光星祭を終えることが出来ました。本来に有難うございました。今年の熱気をそのままに、是非来年のオリンピックも盛り上げていければと思います。

清瀬地区ふれあいバザー

実行委員長 高野 優一

十一月三日(日・祝)天候が心配される中、今年も清瀬地区ふれあいバザーを無事開催することができました。これも日頃からお世話になっております、ボランティア・ご家族・地域の皆様のお力添えによるものと各施設長を始め職員一同深く感謝しております。本当にありがとうございます。余談になりますが、過去三十年間の十一月三日東京都の晴れ

頬張る満足の笑顔。地域の皆様によるフラダンス、獅子舞、マ・メゾン光星の太鼓演奏を鑑賞する楽しい笑顔・・・参加されたベタニアホームの利用者の皆様、在宅サービスご利用の利用者様、来場されたお客様、手伝って下さったボランティアの皆様、そして職員皆に笑顔が伝染し、終始平和な空気の中での開催となりました。ありがとうございました。今後も地域の皆様、利用者の皆様が続け、笑顔をお届けする中野トータルサポートセンターでありたいと思います。(中野トータルサポートセンター)



の確立を調べたところ、八十%という高い確率にびっくりしました。ちなみに前日の二日は七六%、四日は五六%でした。



(聖ヨゼフ老人ホーム)

ベタニアの家

一月行事予定

1日 ☆神の母聖マリア
☆世界平和の日
《元日》

5日 ☆主の公現

7日 東星学園 新年ミサ・職員研修
12日 ☆主の洗礼
13日 《成人の日》
ベトレヘム学園

成人のお祝い

聖家族ホーム 開設記念日

22日 慈生会 理事会

東星高校推薦入試

26日 ☆世界こども助け合いの日

ベタニア宣教センター主催
「黙想と祈りの集い」テゼ
植松功氏とともに

二月行事予定

1・2日 東星中学入試第1・2回

2日 ☆主の奉獻

3日 ☆福者ユスト高山右近殉教者

6日 ベトレヘムの園病院

世界病者の日の祈りの集い

10日 東星高校 一般入試

11日 《建国記念の日》

☆ルルドの聖母

☆世界病者の日

18日 ☆聖ベルナデッタ祝日

21日 ベトレヘムの園病院

健康公開講座

23日 《天皇誕生日》

26日 ☆灰の水曜日



29日

ベタニア宣教センター主催
シンポジウム「介護を受ける日の
ために知っておくべきこと」
中野トータルサポートセンター

三月行事予定

1日 ☆四旬節第一主日

2日 東星学園・中高卒業式

10日 マ・メゾン光星

13日 ☆性虐待被害者のための
祈りと償いの日

14日 東星学園 小学校卒業式

東星学園 幼稚園卒園式

徳田保育園 卒園式

聖家族・聖ヨゼフホーム

15日 ベタニア宣教センター主催
「うれしかったのしい感謝」
瀧口 巨牧師

17日 ベトレヘムの園病院
ボランティア交流会

18日 慈生会 理事会

19日 ☆聖ヨセフ

20日 《春分の日》

21日 ベタニアホーム

24日 中野トータルサポートセンター
感謝の集い

25日 ☆神のお告げ

26日 慈生会 評議員会

お知らせ

令和二年より、「ベタニアの家」
へ頂いたご寄付は、寄付金控除の
対象となります。

計 報

シスターダミアナ 水落 十美穂



一九二二年生 歴
一九四八年三月十九日
二〇一九年三月三十日
シスターベルナルダ 岡村 サト
立誓願
生天



一九二六年生 歴
一九五一年四月九日
二〇一九年四月二十日
シスターマウラ 栗原 久子
立誓願
生天



一九二五年生 歴
一九五八年七月二十四日
二〇一九年七月十七日
シスタージェラルダ 齋木 千枝
立誓願
生天



一九三〇年生 歴
一九六〇年十一月十七日
二〇一九年十一月十七日
立誓願
生天

編集後記



二八年ぶりのパパ様の来日、おかげさまで昨年は東京ドームでのミサに与ることが出来ました。とても庶民的な方でその素敵な笑顔に癒されました。特に差し出された赤ちゃんを抱擁してのキスのプレゼントは格別のものでした。

その優しいお姿から発せられた命の尊さと、平和のメッセージが世界中の人の心にとどまり、新しく始まったこの年が命を大切に、平和の花が咲く一年となりますように。

(原田 直人)

二〇二〇年は、教皇様の訪日メッセージを聞くだけで終わる者ではなく忍耐強く実行し続ける年に。教皇様の『すべてのいのちを守る』ことをまわりに伝え、それを日々の小さなことの中に生まれさせる主の静かなスピーカー、主のケアワーカーとなつて。フロジャク神父様のみ摂理の人夫の精神のうちに。

(Sr 中野 利恵)